



校長室だより 2

黒部市立荻生小学校
文責：校長 寺島紀子
令和6年3月13日
5年度第37号

15日(金)の卒業式に向けて

先週末8日(金)の放課後、教職員で校内の廊下と階段のワックス掛けを一齐に行いました。卒業式を控えた校内がピカピカになりました。

今週からいよいよ全校での卒業式練習が始まりました。教務主任の霜野先生が中心に説明を行いながら、式の流れや細かい動きを全体で確認しています。先行して練習を重ねてきた6年生の態度が素晴らしいのはもちろんですが、1～5年の在校生も練習に臨む姿勢が大変しっかりとしていています。皆でチームワークよく集中し、整然と練習が進んでいて感心します。月、火と2時間のみでの練習のあと13日(水)には予行と、かつてに比べるとかなり短い練習日程となっていますが、短期集中で15日(金)の本番を迎えられそうです。

やや心配しているのは、風邪等の症状が見られる子が増えてきていることです。日によって寒暖の差が激しいからでしょうか。卒業式に向けて各々体調管理もお願いします。

児童会活動も「まとめ」と「引継ぎ」へ...

★今年度最終の「わんぱくタイム」も笑顔で

7日(木)は今年度のわんぱくタイムの最終日でした。いつものように6年生のリードの下で校内のあちらこちらに分かれ、楽しく運動遊びをする姿が見られました。

6年生はこの1年間、縦割りの「荻っ子班活動」をしっかりリードしてくれました。時には「これでいいのかな」「次はどうしよう」と悩むこともあったと聞いていますが、それでも毎日少しずつ前に進むために、相談し合い協力し合いながら皆で乗り越えていく姿は十分力強く、頼もしいリーダーの姿でした。

今年度はコロナが5類になったこともあり、特に全校のみんなが学年の壁を越えて仲良くなれました。お互いの名前を覚え、声を掛け合い、共に笑い合えるステキな学校になったことを嬉しく思います。

★「児童会引き継ぎの会」を全校で行いました

8日(金)の朝の時間に「児童会引き継ぎの会」が行われました。6年生から5年生へ委員会活動のシンボルとなるグッズを引き継ぎ、メッセージを伝えました。また荻生小は青少年赤十字に加盟していることから、その旗も引き継ぎました。下級生も皆でその様子を見届けました。

最後に校長が話をする時間があり、私は次のようなことを話しました。「リレーのバトンプスのように、今6年生から5年生へと児童会のバトンが引き継がれました。これからも『やさしく・かしこく・たくましく』

の荻っ子を目指し、『将就』の教えのとおり一日一日の積み重ねを大切にしていきたいと思います。身の回りの問題に気付きどうすればよいか考え、できることから実行していくようにしましょう。」

児童会のバトンは5年生に引き継がれましたが、6年生は卒業ギリギリまで自分たちにできることを続けたいと、朝の挨拶ボランティア等に取り組んでいます。6年生の皆さん、本当にありがとう！

★この「校長室だより」のカラー版は本校ホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。



3/11(月)地区児童会

今年度最後の地区児童会では、6年生の卒業と4月から入学してくる新1年生のことを想定し、新しい集団登下校班の確認をしました。本校では1年生の入学直後の期間に集団登校をするほか、悪天候等の場合に急きょ班での登下校の措置をとる場合があります。地区ごとに新しい班名簿を作り、集団登校の場合の集合場所や時間を改めて考え直しました。そして最後は体育館に全校で整列したのち、集団下校をしました。

今年度も荻生小学校区では小学生の登下校中の交通事故や不審者に関する事件等が発生せず幸いでした。これも、「こども110番の家」や青パト隊の皆さん、毎朝交差点に立ってくださる方々の見守り活動のお陰と感謝しています。この1年間ありがとうございました。そして、来年度もよろしくお願いいたします。



シリーズ「教室におじゃまします」3/11(月)5年国語科の巻

学年末で教科書の内容もあとわずかとなりました。この日は「日本語の表記」についての1時間の内容でした。

まず日本語に使われている文字を想起します。漢字、平仮名、片仮名、そしてローマ字です。「え、ローマ字って日本語？」と戸惑う声に、高松先生が「3年生の国語の時間に学習しましたよね」と説明し、「そうか」と納得です。

教科書には駅のホームの看板や図書館の館内表示板の写真が載っていて、4種類の文字が混在して表記されていました。「どうしていろいろな表記がしてあるのだろう」と、近くの友達同士で意見を出し合う時間がありました。「漢字が分からなくても平仮名だと読める。小さい子とか・・・」「ローマ字だと外国の人でも読める」といった考えが出てきました。そうですね。

次に、漢字は一字一字に意味がある「表意文字」であること、仮名は読み方だけを表す「表音文字」であることも教科書で確認しました。「平仮名ばかりだと読みにくいし、意味も分かりにくい」「漢字仮名交じりが一番早く正確に読める」との気付きがありました。

高松先生は、以前書いた「本の紹介カード」のことを挙げ、「低学年でも読めるようにふりがなをふっていた、あれも素晴らしかったね」と、子供たちが日頃から表記の工夫を自然に行っていることに気付かせていました。

これからも日本人としてよりよい表記について考え、日頃から心がけていけるといいですね。

表記

まず日本語に使われている文字を想起します。漢字、平仮名、片仮名、そしてローマ字です。「え、ローマ字って日本語？」と戸惑う声に、高松先生が「3年生の国語の時間に学習しましたよね」と説明し、「そうか」と納得です。

教科書には駅のホームの看板や図書館の館内表示板の写真が載っていて、4種類の文字が混在して表記されていました。「どうしていろいろな表記がしてあるのだろう」と、近くの友達同士で意見を出し合う時間がありました。「漢字が分からなくても平仮名だと読める。小さい子とか・・・」「ローマ字だと外国の人でも読める」といった考えが出てきました。そうですね。

次に、漢字は一字一字に意味がある「表意文字」であること、仮名は読み方だけを表す「表音文字」であることも教科書で確認しました。「平仮名ばかりだと読みにくいし、意味も分かりにくい」「漢字仮名交じりが一番早く正確に読める」との気付きがありました。

高松先生は、以前書いた「本の紹介カード」のことを挙げ、「低学年でも読めるようにふりがなをふっていた、あれも素晴らしかったね」と、子供たちが日頃から表記の工夫を自然に行っていることに気付かせていました。

これからも日本人としてよりよい表記について考え、日頃から心がけていけるといいですね。



おまけの<ひとりごと>11日(月)は東日本大震災から13年ということで、集団下校の前の体育館で全校に向けて話をしました。ちょうど子供たちが地区児童会の各教室から体育館に集合したのが午後2時40分。そこから話をし、46分に合わせて1分間の黙祷をしました。どの子も黙祷の意味や方法について自分なりに理解したようで、皆で姿勢を正し、心静かに祈ることができました。私は13年前のあの日、たまたま水戸市内で被災し、近くの小学校で避難所生活を少しだけ経験しました。そのときのこと思い出しました。先日の能登半島地震もですが、「忘れない」「心を寄せる」「語り継ぐ」ということが大切なのだと思います。

★この「校長室だより」のカラー版は本校ホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。